

短 報

富山県立山町天林のエナガの巣に使われた巣材\*

坂井奈緒子

富山市科学博物館

939-8084 富山市西中野町1-8-31

田中 実

富山市

**Materials of a nest of *Aegithalos caudatus*  
in Tenbayashi, Tateyama-machi,  
Toyama Prefecture**

Naoko Sakai<sup>1)</sup> and Minoru Tanaka<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama 939-8084, Japan

<sup>2)</sup> Toyama-shi, Toyama, Japan

はじめに

富山県立山町天林(標高約300 m)の林内で落ちていた鳥の巣を著者が2010年5月7日に拾い、調べたので報告する。営巣した野鳥は、小海途(2011)を参考に巣の形や巣材からエナガ*Aegithalos caudatus* (Linnaeus, 1758)と判定した。

巣の大きさと形

巣は短辺6 cm, 長辺11 cm, 長さ17 cmの筒状で, 3つの穴があり, その内径は4 cm, 3 cm, 2.5 cmであった(図1)。穴のいずれか1つが出入り口であるが, エナガは樹上に巣を作るので, 2つの穴は幹あるいは枝に接していた部分と考えられる。巣の一部は樹上に残っている可能性があり, 拾った巣は欠損があるかもしれない。

巣材

使われていた巣材は, 多い順に蘚類, クモの巣, 羽毛・鳥の羽, 地衣類, 獣毛, スギの樹皮, イネ科と思われる草の葉であった。巣は主に蘚類で作られ, 外側にクモの巣が多くあり, 蘚類同士をからませることに役立っていた。最も外側には地衣類がところどころに貼りつけたようにあった。スギの樹皮, イネ科の葉は長辺部分にあっ

た。羽毛, 鳥の羽, 獣毛は中央部の穴から短辺近くの内側に多かった。産座には羽毛を大量に敷きつめる(小海途 2011)ことから, 中央部から短辺にかけてが産座であったと考えられる。

蘚類の約半分はチャボスズゴケ *Boulaya mittenii* (Broth.) Cardot, 残りがオオギボウシゴケモドキ *Anomodon giraldii* Müll.Hal., カガミゴケ *Brotherella henonii* (Duby) M.Fleisch., トヤマシノブゴケ *Thuidium kanedae* Sakurai の3種からなり, ごくわずかに *Orthotrichum* 属の1種があった。チャボスズゴケと *Orthotrichum* 属の1種は樹幹に生育し, 他3種は樹幹や石上に生育する種であった。どの種も雑木林でよく見られる。蘚類は植物体が立つタイプと這うタイプに分けることができるが, 立つタイプの *Orthotrichum* 属の1種以外は, 這うタイプであった。エナガは植物体が這う蘚類を巣材に利用し, 砂や土がほとんど無いことから樹幹から取ったと考えられる。また, 最も外側についている地衣類も樹幹に着生していたと考えられる。

文献

小海途銀次郎, 2011. 決定版日本の野鳥 巣と卵図鑑. 255pp., 世界文化社, 東京。

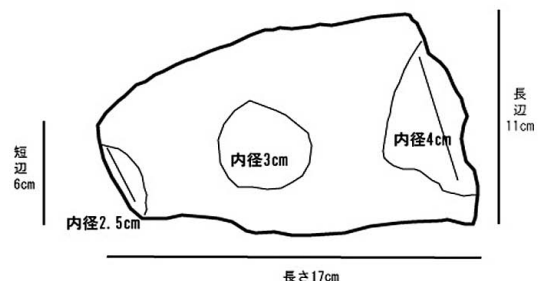
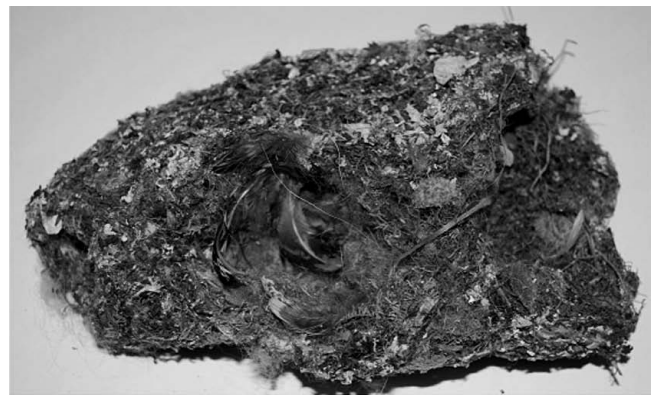


図1 エナガの巣

\* 富山市科学博物館研究業績第497号